

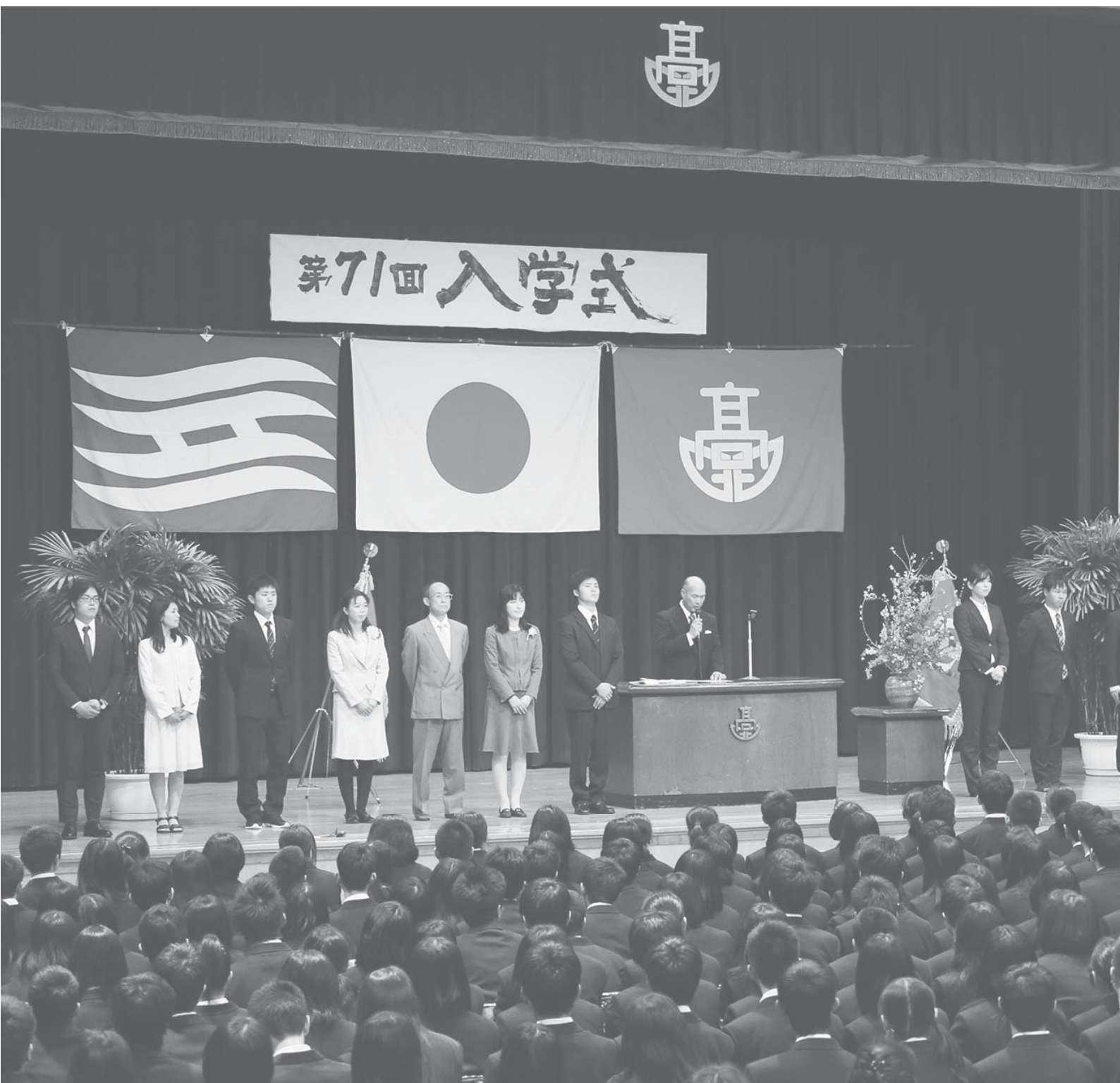
自彊食だより



変わらぬ
伝統と文化

今も

明高に新風を



第71回入学式 写真撮影 北村写真室

表紙題字・佐伯 敏裕 (高24回)
裏表紙写真撮影=木村時彦氏『写真アルバム 明石市の昭和』より

関関同立に延べ196人合格 創立100年に向け叡智を



同窓会会長 竹内 信 六 (高13回)

野山の緑が目には優しい季節です。会員の皆様は、ご清祥のことと存じます。いつも同窓会活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年も高校入試の合格発表の瞬間を見に行きました。「十五の春」の歓声を聞きだしてから十数年になるでしょうか。この瞬間から「この生徒たちのために3年間、同窓会は学校、PTAと協力して何をすべきか」自問しています。今年は関西の難関私学「関関同立」に延べ196人が合格してくれました。(関学61人、関大90人、同志社20人、立命5人)。甲南81人を加えると277人

のほりまです。本人の努力は勿論ですが、指導していただいた先生方に敬意を表します。詳しくは、進路結果のページを参照してください。

一方、学区が再編されて2年目の今年度一般入試では定員割れしました(定員280人に対し志願者271人)。明高が確固たる地位を築いていないこととなります。複数志願制が導入されてから9年目になりますが、高校間の序列が鮮明になり、本校は「道半ば」の状態です。全国で活躍中の同窓生たちの忸怩たる思いを肌感じます。

このような状況のもと、7年後に創立100周年を控え、記念事業の準備に向け実行委員会を設立する時期が近づいています。どのような記

念事業をするのか、資金集めは…など同窓生各位の叡智を寄せていただきたいと考えております。

同窓会に年会費制を設け、会員の皆様にご協力をいただくようになつて二十数年が経過しました。この間、会費額を2000円でお願ひしてまいりましたが、会報発行費用の増加、母校支援の充実、そして来る100周年への準備など多額の経費が必要となる一方、消費税の上昇など支出の増加が予想される状況にあります。27年度総会において承認いただきました通り、今年度より会費額を年3000円とさせていただきます。同封の別紙をご覧ください。ご理解とご協力をお願いいたします。

まだまだ課題の多い母校ですが、他校とも交流をはかりながら、本校の良い面を伸ばしていきたいと考えています。

今後とも卒業生の皆様のご協力とご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。



もくじ

会長あいさつ	1
校長あいさつ	1
平成28年度総会・懇親会案内	2
ひととき	2
自彊不息	3
学年同窓会交歓	4
入会あいさつ	9
支部だより	10
部活動同窓会	12
明中・明高ゴルフ会	13
13回関東同窓会	14
自彊セミナー報告	15
人事異動	16
進路状況	17
大学合格者の声	18
部活動報告	19
部活成績・記録	20
お悔み	21
杉山清巳さんを偲んで	24
決算報告・事業報告	25
同窓会役員	26
事務局より	27
楽器寄贈	28
編集後記	28

さらなる飛躍に向けて

第23代校長 永井邦治(高27回)



自彊会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素は、本校の教育活動に対し多大なご支援・ご協力を賜り心から感謝を申し上げます。昨年1年間があつという間に過ぎた気がします。着任して喫緊の課題が理数探究類型の定員割れへの対応でした。おかげをもちまして、28年度入試では40名の定員に対して56名の出願を得ることができました。しかしながら、3月の複数志願選抜では本校を第一志望とする人数は募集定員280名に対して271名でした。結果として定員を割ることはありませんでした。結果として、明高に來たいと思う生徒が前年度から減少した事実を厳肅に受け止めています。

今年度の大学入試結果を見ると、国立の合格者数は昨年から2名減少して56名、難関大学への進学者も減少しました。しかし、私学の関関同立では、いずれも昨年の2倍近くに伸びています。センター試験への出願率も高まりました。指定校等に頼らず最後まで頑張ろうという学年のスローガンのもと、学年団や生徒達が着実に成果を上げてくれたと思います。この流れを切らぬよう引き続き努力したいと思います。一方、本校の学校行事は活発といえますが、今少しレベルアップを図ることができればと思っています。また、部活動においても一層の奮起を期待しています。いろんなところで生徒達の持てる力をより伸ばしたいものです。多くの中学生が「明高に行きたい」と強く思ってくれるよう、できることから工夫改善に取り組みたいと考えています。皆様には今後とも母校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成28年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

- 一、期日 平成28年6月18日(土)
- 二、時間 午後4時(受付は3時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、次第 ①会長あいさつ ②議案審議 ③質疑応答 ④その他

懇親会のご案内

総会後、二年に一度の懇親会を開催いたします。ご友人を誘っていただき、お気軽にご参加下さい。懇親会の中で中学19・20回生の皆様をお招きして、「米寿を祝う会」を予定しております。

記

- 一、期日 平成28年6月18日(土)
- 二、時間 午後5時(受付は4時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、会費 5000円
- 五、申込 ファックスのみの受付となります。住所、氏名、回生を記入して、送付して下さい。会費は、当日受付にてお支払い下さい。

ひととき



同窓会の活動の主たる年齢層は、五十代、七十代が中心だろうか。仕事をリタイアした六十代は、まだまだ何かできる感が強く、体も心も元気である。そこでやり始めるのは、野菜作り、庭仕事、ジム通い、山歩き、魚釣り等々である。

これらは、頭と体を使うので老化予防に役立つことは確かである。そう言えば、年をとる程に「きょういく」と「きょうよう」が大切であると先輩に教えて頂いた。「今日、行く所がある」、「今日、用がある」ということだそう。

笑い話のようだが、老化予防の本質をついていると感心した。

一方で、私のまわりで最近よく聞くのが、腰痛、膝痛、老人性〇〇というものである。まだ元気と思っても、筋力の衰えによるこれらの痛みは、知らないうちに忍び寄ってくるらしい。自分では認めたくない老化も、筋力の衰えという形で知らされる。

しかし、ここは老いを自覚しつつ、上手にお付き合いをしながら、筋活に励んだり、同窓会活動に参加するというのはどうだろう。「きょういく」と「きょうよう」を大切にすることになると、若葉の美しさを歌いながら思う今日この頃である。

(幸)

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

世界を目指す卓球人生

明石銀座・木村書店

木村 稔さん(高5回)

高校5回卒業の木村さんは1953年に卒業され現在81歳になられますが、卒業後も地元・明石銀座で書店経営をされる傍ら卓球道に打ち込まれ、全日本卓球選手権大会や世界選手権にも挑戦してこられました。これまでの輝かしい戦歴と超人級の元気の秘訣を聞かせていただきました。2月のある寒い日、朝霧東町のご自宅を訪問させていただきました。ご自宅の南側には広い菜園があり各種の野菜が作られています。これまでの長い卓球人生を共にされた奥様とお二人にお話を伺いすることができました。

(聞き手は常任理事・佐々木卓郎)

【まずは木村さんが在学された当時の明石高校の思い出をお願いします】

校舎は1号館から3号館までの教室と、講堂や雨天体操場などすべて木造でした。当時HR以外は各学科別にクラスが編成され、毎時間科目ごとに教室を移動して授業を受けていました。そのおかげで

学年全員が知り合いで、多くの友人を作ることができました。卒業後も同窓生間の交流はつづき、75歳の時の同窓会には60人以上の参加がありました。



【卓球を始めたのは?】

錦城中学校時代は野球をやっていたが、4歳上の兄が明石中学に卓球部を創設していたこともあり、高校入学時に卓球部を選びました。戦後間もない当時、日本では手軽なスポーツとして卓球が普及し競技人口も多く、日本人が世界トップレベルで活躍したこともあり卓球ブームであったと思います。

3号館北の三角池と運動場の間で、のちに食堂となった建物が卓球部の練習場でした。練習後その北側の武道場との間にあった一列に並んだ蛇口の水道の水が夏も蛇口が結露するほど冷たくて本当においしかったのが忘れられません。

【在校中のクラブ活動やその後の卓球人生での戦績を教えてください】

在学中では全国高等学校体育大会卓球大会(インターハイの前身)で個人・団体の部とも県で4位が最高戦績でした。卒業後は全日本卓球選手権大会社会人の部に出場し、シニアクラス(35~45歳)

で、3位入賞することができました。また、40歳と41歳のときには全日本社会人卓球選手権大会・40歳代の部で軟式と硬式両部門で連続優勝しました。その後も75歳代まで全日本卓球選手権大会マスターズの部に38回連続出場できたことは日々の体調管理の賜物と思っています。

【この写真は海外の大会での表彰台のようですが】



世界ベテラン卓球選手権大会のもので。この大会は50歳以上が対象で、2年に一度世界各地で開催され、毎回世界中から2000人以上が参加しています。私は49歳から80歳まで参加し、家内と旅行を兼ねて世界各地を転戦した楽しい思い出がいっぱいです。写真は1994年オーストラリア大会に参加しシングルとダブルスで第3位入賞した時のものです。

【ということは、奥様も卓球を?】

そうですね。家内も卓球漬けで、50歳の時クラブ選手権大会に県代表として出場し、全国優勝しました。また、娘も大学時代に国体団体戦に県代表として3回出場し、3位の戦績を残しました。現時点で孫を含めた家族3代で真剣勝負すれば家内が最も強いですね。

【びっくりボンの卓球一家ですね。地域での活動にも力を入れておられると聞きました】

【髪はふさふさ・くるグロ。本当に健康そうですね。その秘訣は?】

タバコ、酒はたしなみません。若いころから身体には何の心配もなく過ごしてきましたが、55歳で初めて健康診断を受診したところ心房細動が発見されました。しかし、その後も過激な運動でもなんら問題はなく健康な毎日を送っています。秘訣というほどではありませんが健康維持のため野菜と肉を腹いっぱい食べ、持続的に運動することを心がけています。そのためには自家菜園での野菜づくりは不可欠ですね。

【最後に若者への一言をひとつ】

日本の社会、会社は人材の宝庫と言われていますが、残念ながら個人を活かすきれていないことが多いのが実情だと思います。そういった社会の中では個人として何事にも目標をもって挑戦することが大事だと考えます。

校是である「自治・協同・創造」

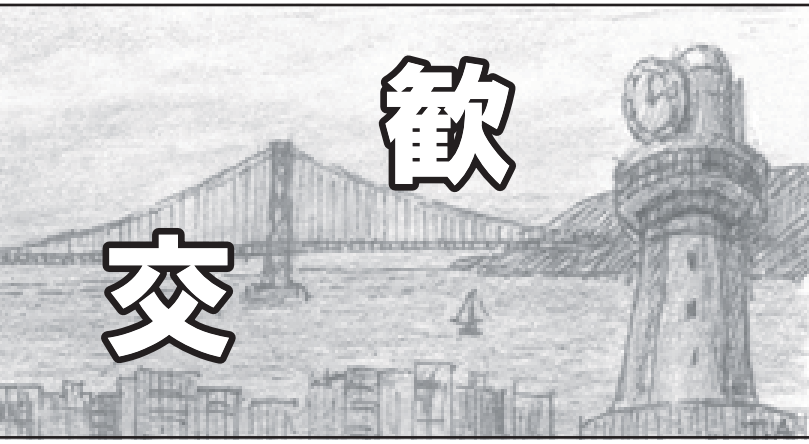
の精神は人間が生きていくうえで必要なことをすべて言い尽くしていると思います。



明高会(旧職員会の会)

小林 二城

平成28年3月5日(土)、グリーンヒルホテル明石において、第8回明高会(旧職員会の会)が開催され、36名が集い旧交を温めました。冒頭に旧職員物故者追悼の黙祷を行った後、世話人代表の谷内豊先生のご挨拶で開会。続いて、ご来賓の永井邦治校長から祝辞と明高の近況報告をいただきました。進学実績や部活動の活躍、国際交流の取組等、我が明高の活躍に参加者一同、歓びの声をあげ、今後の一層の飛躍



イラスト・安藤 勉 (中18回)

を祈念しました。

その後、越智聡明先生のご発声による乾杯で始まった歓談の時間では、かつての勤務時の出来事を、つい先日のことのように感じつつ、思い出話に花を咲かせました。

祝宴の終盤には、山本茂之先生の指揮の下、中島寛先生のエールを受けながら全員で校歌を熱唱。今も明高校歌は旧職員の応援歌であると痛感しました。

大変和やかに過ごした時間もあっという間に過ぎ、村本武彦先生の挨拶で閉会。別れを惜しみつつ2年後の再会を誓い合いました。



第8回明高会



傘寿記念

高校六回

生島 淳 伍

平成27年5月12日(火)新緑が雨に光る中、永井邦治現校長を来賓に迎え72名の参加を得て「六回生傘寿記念同窓会」をグリーンヒルホテル明石にて開催しました。

戦後70年、大震災から20年という我が国にとって節目の年に記念同窓会が開かれることは、我々の人生に有意義な忘れがたい思い出になりました。

戦前に生まれ、戦中に国民学校に入学し、軍国主義教育を受け、4年生で終戦を迎え、それまでとは全く異なる民主主義教育を受け、社会に出てから70年、それぞれが、「川の流れるような人生」を歩んできました。人生50年時代の幼少期が今、人生80年と言われている中、みんな「健康寿命」を保って集まれたことは嬉しい限りでした。最後に、全員で校歌と応援歌を声高らかに歌い、再会を祈念しながら、母校への想いを新たに閉会しました。

なお、当日の会費の中から、一部を同窓会の母校支援事業への協賛金として寄付しました。



2014.05





喜寿記念

高校九回

砂河雄造

喜寿の記念同窓会を平成27年5月22日にシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催いたしました。大変ロケーションの良い「五色の間」へ出席者65名が定刻迄に全員揃い、室内で記念写真撮影後、司会者の進行で世話人代表の挨拶、物故者の霊に黙祷を捧げ、一番遠方から駆けつけた仲間（長崎県から）の乾杯の音頭で食事（フランス風・和懐石）で懇親会が始ま



りました。今回は3時間の限られた時間を出来るだけ沢山の方々とお話しをしてみよう為、イベントや一人ひとりの自己紹介は無しにして、懐かしい友人等との会話を楽しんで頂く為に、部屋の両側におしゃべり用の椅子10脚を用意し使ってもらいました。そう言いながら、太極拳の先生をしている方の模範演技を教えて

高校十一回

大林省三

最後にCDの伴奏で全員が大声出して歌謡曲の「高校三年生」と「明石高校校歌」を合唱し会を終了しました。舞子ビラの美しい芝生の庭へ出て明石海峡大橋をバックにもう一度写真を撮り、再会を約束し解散としました。

母校を卒業して54年と7ヵ月になる74〜75歳の同期が昨年11月10日に集い、明高11回生同窓会を市内のグリーンヒルホテル明石で2年ぶりに開催しました。参加者は58人、前回より6人多い人が参加しました。前は前回より26人減り、介護等で参加出来ない同級生が増えたため、今回は40人前後に減るのでは

戴いたり、仲間の京大の名誉教授で後期高齢者の医学の権威の方から高齢者が医者や病院へ行く時は「医学の知識が有る方や家族の方々」を同行してもらおうようにすると良いと言うアドバイスを戴いたりするハブニングも有りました。あっと言う間に2時間半が過ぎ、次回の同窓会の時期は3年後（傘寿80歳）、次の世話人も決まりました。



とカウントしていましたが、思わぬ出席者の数と元気な姿に再会を喜びあいました。参加者はクラスごとの7テーブルに分かれ在学当時の話題を懐かしみ、関東や中部、四国、中国地区からはせ参じた同期を囲み、メールアドレスを教えあい、喜寿での再会を約束しあいました。

高校十三回

日下孝明

昨年の9月21日(敬老の日)、改修な
た白亜の姫路城をバックに、ホテル日航
姫路で第13回生同窓会を開催した。恩師
の中嶋忠幸、森本正之両先生をお迎えし、
参加者は70名で盛り上がった。

今回は初めての試みとして、自彊会会
員名簿の作成や同窓会報を発送してもらっ
ている「㈱サラト」殿に依頼して運営、
ホテルとの交渉、参加者募集、郵送、ホー
ムページを開設してインターネットを利
用した参加者情報掲載などを実施した。

全員の集合写真撮影の後、竹内信六君
の司会で始まり、逝去された同期生に黙
祷。姫路城ゆかりの黒田官兵衛もどきに
扮した今回の代表幹事の私が甲冑武者の
姿で挨拶し写真。小池智仁さんのショパ
ン「幻想即興曲」など6曲の見事なピア
ノ演奏に聴き入った。また、「人名ビン
ゴゲーム」と称して、参加者全員の高3
の時の顔写真を前もってスクリーンでパ
ソコンに取り込み、西川眞澄君が参加者
の名前が書かれたクジを引き読み上げる
と、前田良昭君がすかさずその人の顔写
真をスクリーンに映し出し、各自が持つ
ているカードの名前にマルを入れ、縦か
横か斜めが埋まれば「ビンゴ!!」という
ゲームを楽しみ、和気あいあい旧交を

温めた。
二次会もほぼ全員の参加を得て、白鷺
城を見ながらカラオケ、おしゃべりを楽
しみ、次回の参集を約束して散会した。



高校十四回

手塚 佳世子

平成27年9月13日グリーンヒルホテル
明石にて同期の会を開催致しました。

明高を卒業して17年後、昭和54年に最
初の同期会を開き、今回で9回目になり
ます。

前回の古希の時より、少し減りました
が、77名が、東は千葉・神奈川・愛知・
京都・奈良、西は高知・岡山等から、馳
せ参じてくれました。恩師、良き友のご
冥福を祈り、明高校歌に続き、応援歌を
元氣よく大合唱して、参加者一人一人紹
介すると昔の面影のある人、ない人色々
ですが、みんな54年前の明高生に戻り、
先生の事、授業の事、クラブ等に花を咲
かせ、一次会二次会で終らず三次会まで
なごりを惜しみました。

次回の同期会まで、先ず健康で、認知
症にならないように頑張って再会を祈念
してお開きとしました。





古希を迎えて

高校十六回

岡本建二

いつまでも50歳の儘でいるつもりが、
現実にはシビアで容赦なく、古希だの70だ
のと、追い打ちを掛けるように覆いかぶ
さってくる。

トウの昔に、結婚やおめでたの話は皆
目となり、近頃は逢えば医者と薬の話に
明け暮れる日々である。

嫁や旦那の顔は見飽きるのを通り越し、
空気よりも毒があり、だが、しかし、同
級生はというと、歳は喰って面影すら薄
れてはいるものの、僅かながらの青春の
匂いと、名残りがあふ。

これこそが逢いたいと思うエネルギー
なのだ。

あれからもう2年が過ぎ、古希を迎え
ての同窓会である。

2年の間に既に7名もの友がこの世を
去った。

また、病气やその他諸々の事情で参加
できない友も居る。

逢うたびに友が減ることは寂しい限り
である。

それでもこうして99名もの参加をみた。
どうかこのまま、皆が変わらずにいて
ほしいと祈る想いで有る。



体は思うに任せず、口だけは変わら
ず達者で、朽ち果てた色気と、役にも立
たない恋心と、消えかけた青春。
そんな想いに溢れんばかりの友よ、乾
杯!



卒業50周年記念

高校十八回

折戸善信

18回生の卒業50周年記念同窓会が、平
成27年10月3日(日)神戸メリケンパ
ークオリエンタルホテルにおいて、112
名が参加し開催されました。

柳瀬君の司会で始まり、代表幹事の佐々
木君の挨拶、各クラス幹事紹介等会が進
行しました。乾杯の後は、各テーブルご
とに各自の健康報告や孫自慢などの談笑
が渦巻いていました。途中今回ご出席い
ただきました小倉先生、武岡先生、中尾
先生から近況のご報告をいただくなど、
あっという間に3時間が過ぎ去っていき
ました。また、先生方のお話を伺うこと
で、逆にわれわれが励まされたのではな
いかと思いました。それぞれのお話の後、
出席者の誰もが3人の先生方にはいつま
でもお元気にお過ごしいただき、是非次
回の古希の会へもご出席をいただきたい
と強く願った次第です。

その後、二次会は少し趣向を変えて、
ホテルに隣接するターミナルから出航す
るルミナスの船旅を行い、出席者の大半
が参加し2時間のクルージングを楽しみ
ました。少し風が強かったのですがデッ
キに出て談笑。普段とは異なる船上から
眺める明石海峡大橋のイルミネーション



の雄大さと美しさに感動を覚えるとも
に、天文学館やその北上にある母校を
眺めながら、これからのわれわれの健康
と百周年に向けた母校の発展を祈念した
ところです。

高校二十九回

小 椋 利 雄

平成27年4月4日、グリーンヒルホテル明石において29回生第5回同窓会を開催いたしました。

本来なら5年周期でやってきたのですが、2年早いのですが、選歴にターゲットを絞って開催いたしました。それとやるなら一番早くということで、4月にやりましたので、同窓会事務局にはご迷惑をかけてしまいました。

当日は、佐伯先生、前田先生、出雲から菅野先生が、お越しいただき同窓生60名とともに和やかな時間を過ごすことが出来ました。今回は、要望により1年の時のクラス分けてテーブルを決めました。選歴同窓会は、2年の時のクラス分けになります。その時は、何か赤いものを身につけたらどうかと提案頂いています。

幹事として印象に残ったのは、佐伯先生が、甲子園に母校が出たので校歌を披露されたことです。あ！もしかして同窓会で皆が唯一共通できるのは、我が明高の校歌ではないだろうか？特に格調高い明中校歌：好きな人が多かったです。

幹事として、反省することも多かった会でしたが、選歴同窓会に向け同窓生の皆様よろしくお願いたします。元気で



会いましょう。その際には今回の寄せ書きも披露しますので楽しみにして下さい。最後に、亀井堂様、グリーンヒルホテル明石様に大変お世話になりました。感謝いたします。

高校三十六回

浅 田 雅 之

終戦記念日平成27年8月15日(土)に明高36回生の50歳を記念して学年同窓会が西明石 ホテルキャッスルプラザで開催されました。男子58名、女子81名総勢139名の同窓生と恩師5名の参加で行われました。昭和59年に卒業してから32年ぶりに会う同級生などいても大変盛り上がり、話し出すとすぐに高校時代に戻り本当に楽しい3時間を過ごせました。その陰には、この同窓会を開催するに当たり出来るだけたくさんの方に参加していただくように18名の実行委員が何度も何

度も実行委員会を居酒屋、屋金ちゃんで開催し、名簿や案内状を作成しその時間もとでも楽しいひと時でした。参加者が多くて集合写真が1回では収まらず2回になると嬉しい悲鳴もありました。今までのクラス会やクラブ単位では会う事があっても学年全体というのは初めてで、50歳という節目で139名の同級生と再会でき本当に良かったです。



校訓『自治・協同・創造』のもと本当に自由に高校生活を謳歌できたと思います。そんな明高生も50歳になり社会で活躍し、また家庭を持って父として母として頑張っている姿を見ると本当に私は明石高校を卒業して良かったと心から思いました。私の周りにはたくさん明高OBの方々がいて明高36回ですと言うととても親近感を持っていただき可愛がっていただくれます。これが歴史と伝統ある明石高校なんだとつくづく感じていきます。

次回5年後55歳の年に学年同窓会を開催します。是非たくさん36回生の参加を楽しみにしております。お声掛けの方宜しくお願いします。

66 回生 成人記念同窓会

学年主任 菊池 久司

平成28年3月21日、約140名の参加を得て「成人の集い」が本校の中部講堂で行われました。当日は快晴にも恵まれ、10時半開始予定でしたが、朝早くから登校し、友達とクラブ活動など思い出の場所を訪れる卒業生も見られました。開会前には正面のスクリーンに高校生活の懐かしい場面のスライドが映し出され、気分は高まっていきました。

そして、定刻に、代表幹事の大前さんの司会で式が始まりました。まず本校の大先輩である永井校長先生にご挨拶いただき、旧担任団のスピーチへと進みました。各先生方からの近況報告や、メッセージなどをいただきました。その中には、めでたいサプライズ報告もあり、卒業生たちの、うなずいたりこやかに笑ったりする姿が印象的でした。その後、同窓会からいただいた景品をめぐっての「ジャンケンゲーム」で会は盛り上がりました。記念写真撮影の後、懐かしい教室へと場所を移し、時間を忘れて語り合いました。母校で過ごした3年間の思い出は、幾つ歳をとっても消えることのない大切なものです。また共に過ごした友達はかけがえないものです。今後の長い人生の中では楽しいことや辛いこと、いろいろ

なことがあるでしょう。どんなことがあっても、あの頃頑張った自分や、今もどこかで頑張っている友達の姿を思い浮かべ、それぞれの場所で花開いてほしいと思います。

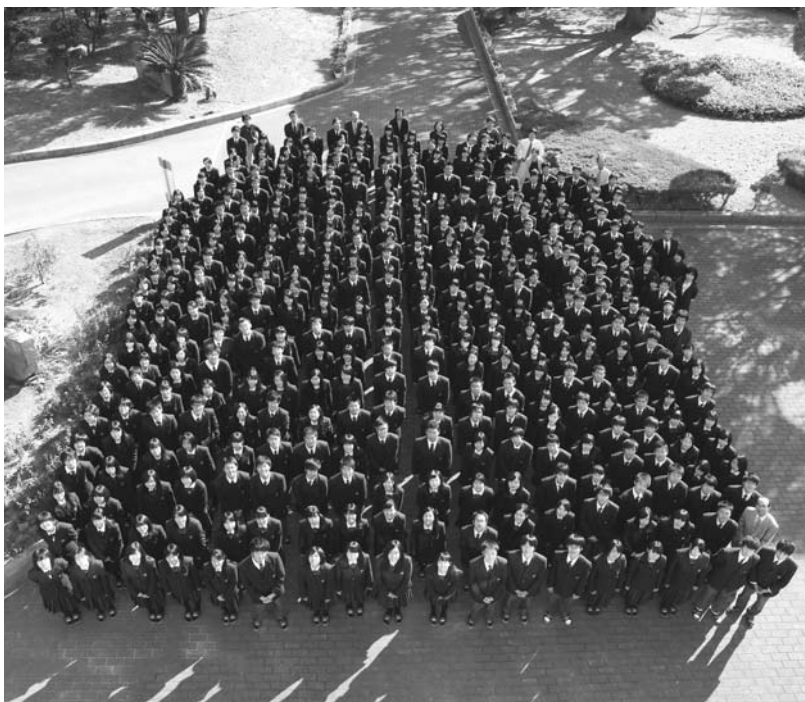


同窓会入会あいさつ

松村 みなみ (高68回)

海に臨む校舎を発ち、私たち明石高校68回生は、それぞれの選んだ道を歩み始めました。先生方や親をはじめとする大人の背にまだまだ甘え、守られていた高校生時代を終えた今、責任ある学生・社会人として正しく成長していけるよう、卒業生たちは各々に覚悟を決めていることと思います。数年後、数十年後に、お互い立派な姿で友と再会する日を迎えられることを望んでいます。

同窓会の皆様には、在学中からも、学業から校内設備の拡充に至るまで、多くのご支援をいただきました。大勢の先輩方が見守ってくださいているという安心感



の中で、私たちは充実した学校生活を送ることができました。これからは私たちも同窓会の一員として後輩の学校生活を支える側に立つのだと思うと、自然と背筋が伸びるように思います。卒業生としての役目を果たし、後輩の成長をしっかりと支えていけるよう努力しますので、今後ともご指導どうぞよろしくお願い申し上げます。

支部だより

美術科支部

鷲 森 智 美 (高38回)

平成27年7月4日、明石高校資料館において第9回同窓会美術科支部総会を開催しました。初めて参加された方もいらっしゃいましたが、今回は、皆さんからのいろんなご意見も取り入れながら会を進行させて頂きました。



美術科支部総会

役員では、新しく着任されました美術科19回生の上田修平先生を顧問に迎え、さらには後輩たちとも直接交流を持ち、親

睦を深めながら、今の世代の若者たちのニーズにあった新しい事業の展開ができるような同窓会活動を繋げていきたい。とのご意見もいただき、新たな挑戦もしていきたいと思っています。

6月に発行しました「美術科画報第11号」では、特別付録として「美術科クロニクル」を同封し、同窓会展にお越しいただけなかった方にも懐かしくまた、楽しんで頂けるよう趣向を凝らしました。

次回第12号の発行でも予算がかりますが、会でも様々な案がでましたが、支部の皆さまには会の趣旨をご理解頂き、会費納入にもご協力をお願いいたします。また今年度内には、SNSなどを利用して、公式の美術科支部サイトを立ち上げる予定です。

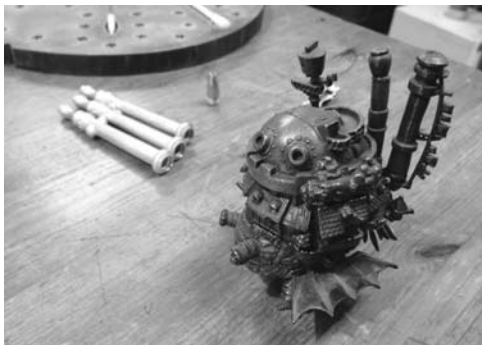
同窓会活動の一環として6月にも、美術科関東支部副会長の阿随秀昨さん(高39回)、東敬祐さん(高39回)にご協力いただき、関東圏で活躍されている高38



関東圏明石高校OBOG懇親会にて

回(美1回生)を含む、より若い世代の同窓生を中心に、大学生を囲み、同窓生それぞれ人生の中で培ってきた経験を後輩達にも伝え、役に立てて欲しいという思いから特別企画として、渋谷区にありますが「yao」店で会を開きました。突然の開催ではありましたが、普通科OBからも、平成17年に「岡本太郎記念現代芸術大賞展」の特別賞を受賞された、棚田康司さんにお会いし、また沢山の方にお集まり頂き、充実した時間を過ごす事ができました。

また、希望者を募り、台東区谷中にあります「阿随金属工房」へ、念願が叶い見学をさせて頂きました。



阿随金属工房 工場見学

阿随さんの作品は、三鷹の森ジブリ美術館内のショップ「マンマユート」にオリジナルグッズとして数々あり、これらは錫合金(ピューメタル)で铸造され、ひとつ一つ手作りで職人の技が際立ち、

彼の遊び心が惜しげもなく盛り込まれています。実際に作業工程に立ち会えることは後輩にとっても貴重な体験になったと思います。

今年度も新しい活動の幅を広げ、積極的に挑戦し、会の運営や事業の活性化を図り、より多くの方々との交流を深め、更なる「明高ブランド」を創り上げていきたいと思っております。

最後になりましたが、支部活動にご理解を賜り深く感謝申し上げます。また、ご支援をいただき本当にありがとうございます。



高校39回 棚田康司氏の展覧会へ

平成28年度 同窓会美術科支部 総会のご案内

下記にありますように、第10回総会を開催いたしますので、多数ご出席いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

期日 平成28年6月26日(日)
時間 13時30分より
(受付は13時から)
場所 明石高校 資料館

関東支部

野呂良久(高14回)

平成27年9月6日(日)、正午から午後2時まで恵比寿ガーデンプレイスにあるピアステーションに永井邦治校長、竹内信六自彊会会長らをお招きし、高校5年生から44回生までの44名が出席して開催されました。東京自彊会の再発足であった昨年は100名近い出席者であったのに、45回生以下67回生までの若い世代の出席が1名もない極めて寂しい限りでした。

今回は27年4月に東京近郊の大学に入学された14名の方々を歓迎する会にもして見ようとの試みから、自彊会本部のご協力を頂き、14名の実家のご両親宛にご子息の消息を尋ね、招待状を郵送しましたが、1名の応答もないと言う極めて残念な結果となりました。

また、1名でも多くの出席者をとの意向から、卒業年次毎のクラス会を二次会として開催して頂くよう要請し、14回生と20回生のご協力がえられましたが、この会の開催前にクラス会が開催されていた事などもあり、もくろみ通りにはなりませんでした。

永井校長のご祝辞と学校の近況報告から会の幕開き、竹内自彊会会長の乾杯の

音頭、20回生「安藤ハザマ」代表取締役社長野村俊明氏の中締めと滞りなく終了しましたが、この会のために尽力してくれました役員から今後の東京自彊会のあり方を含め、総会・懇親会の開催方法やその中身の再検討が必要であるとの自省の弁が多い結果となりました。



県庁支部

田中敬一(高26回)

平成28年3月10日、兵庫県庁自彊会総会を、ホテル北野プラザ六甲荘で開催しました。本来なら、2年毎に開催すべきところですが、諸般の事情により、今回は5年振りの開催となりました。

県庁自彊会が、多数の会員で賑わっていた時期を知っている者としては、最近では、現役、特に若い世代の会員が年々減少しているのが非常に残念ですが、当日は、OB特別会員の他、自彊会役員等の方々にも参加をいただき、30名のアットホームな雰囲気の中で交流を深めることができました。開会に際して、来賓の竹内自彊会会長、永井明石高等学校校長から温かい祝辞を頂戴しましたが、母校出身の校長が続いているのありがたいことです。

和気藹々の交流の最後は、お約束の校歌と応援歌の斉唱、そして益々の会の発展と母校へのエールを込めた万歳三唱で締めました。県庁は大きな組織なので、同窓と一緒に仕事をする機会が少ないのですが、こうして同じ学舎で学んだ者が集うのは、やはりいいものだと思認識した次第です。

なお、記念撮影の背景の旗は、当日も

お元気な姿を見せていただきましたが、県庁自彊会初代会長の加護谷大先輩から寄贈いただいたもので、四半世紀にわたってこの会を見守ってくれた旗です。今後、この会の発展を見守ってくださいものと祈念しております。
最後になりましたが、今回の開催に当たりましては、会場設営や料理等につきまして、同窓ということで石井支配人に種々便宜を計らっていただきましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。



部活動 同窓会だより

音 楽 部

顧問 鈴木龍仁



音楽部OB会は、現役部員たちが毎年5月に開催している定期演奏会をはじめ、日頃の活動が円滑に進められるよう支援するとともに、OBメンバー相互の親睦

を深めていくことを目的として活動されています。

昨年の定期演奏会は、5月3日に明石市民会館アワーズホールにて行われました。会場には、演奏に参加して下さった41名の方々をはじめ、実にたくさんの方にお越しいただきました。出演なさった方の中には、徳島県や愛知県などの遠方から毎年のように駆けつけてくださる方もおられ、顧問としていつもたいへん嬉しく思っております。

終演後の懇親会は、明石市内にありますライヴハウス&レストラン「POCHI」にて行われましたが、ここでも70名近くの方々が出席され、老若男女さまざまな世代のOB諸氏が一堂に会して祝杯をあげることができました。



さて現役生たちの活動状況ですが、夏の吹奏楽コンクール東播大会では金賞を受賞したものの、惜しくも県大会に出場できる順位に入ることができませんでした。また、冬のアンサンブルコンテスト東播大会でもクラリネット5重奏が金賞を受賞し、こちらも県大会に出場できる順位にはわずかに及ばなかったものの、東播吹奏楽連盟賞を受賞することができました。これもひとえに、日頃より温かいご声援を頂いております皆様のおかげと、心より感謝しております。どうかこれからも一生懸命頑張る現役生たちを温かく見守って下さいますよう、よろしくお願いいたします。

硬 式 野 球 部

大塚 弘一 (高15回)

例年通りOB総会を27年5月31日に母校資料館で開催しました。

現役並びにOB会共に残念ながら自彊会会員諸氏へ特別にご報告出来るようなホットニュースの無い年になりましたが、現役に対しては公式戦用ユニフォーム25着の贈呈を行い、総会に先立ちユニフォーム姿の橘キャプテン以下現役よりお礼の挨拶を受けました。

併せて監督・部長・コーチ陣へのスタッフフット、帽子、ストックキングも新調しました。OB会の財政状況にしましては総額65万円を上回る出費は厳しいものであります。今後の投資と考え、現役諸君の奮起に期待するものです。



卓球部OB会

永田政重(高19回)

10年程前から有志の発声ではじまった卓球部のOB会です。

毎年お盆の頃に集い、若き日の雄姿と現在の老姿(?)を重ねての思い出話や、旧交を温めております。

このひと時を楽しみにして、東は東京から西は長崎から参加してくださる方もおられます。その中で驚きなのは、今でも現役で卓球をされている方の多いことです。(腕前は?もちろん昔取った杵柄ですよ!)

現在は年1回の楽飲会と年3回のゴルフコンペを行っています。

昨年は卓球界では有名な大先輩、木村稔氏(明高5回生、木村書店)も参加してもらい有意義なお話もいただきました。

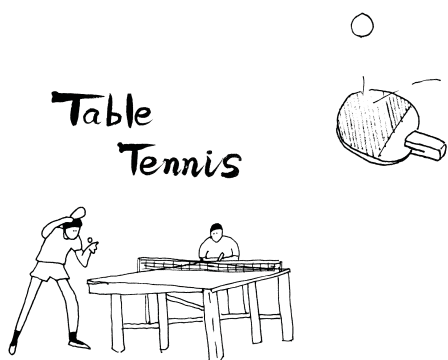
写真は5回生から22回生まで集った昨年の模様です。(総勢30名)

今年は8月21日(日)グリーンヒルホテル明石で開催を予定しています。

奮ってご参加ください。

連絡先:永田政重(19回生)

078-914-4895



バスケットボール部

和田直樹(高28回)

ハァ、なかなか現役の景気の良い話が聞けんあな・・・というお嘆きのOB諸氏に朗報です!新しい顧問が来られましたゾ!

加古川東高校↓神戸大学体育会バスケット部の新卒です。これで少なくとも4、5年は安心して見てられますね。(ホンマか?)

さて、OB会の活動報告です。

今年度は3月15日に67回生の祝卒業OB会歓迎食事を開催し、5月3日にOB総会現役親睦会を、8月16日にカーニバルを開催いたしました。特に今年は現役の部員が多く、総会親睦会には96名、カーニバルには106(!)名が元気な顔を見せてくれました。若い顧問の2人もメンバーとして参加、バスケット経験なしとのふれ込みだったのでハンデ付けたら大活躍・・・し過ぎやがって、もう。

ここ10年くらいの印象ですが若いOBの参加率が下がっています。せめて学生の間くらいは顔見せてほしいなあ、っと。親睦会やカーニバル等器はあるんですから後は参加して継続、ですよ。卒業と同時にバスケットからも離れてしまうのはOB会としては寂しいもんです。



そんな生涯スポーツとしてのバスケットを楽しみたい貴方には、毎週土曜日は明高体育館で午後六時よりOBの練習を行っています。若手から50オーバーまでバラエティーにとんだメンバーでやっていますので一度覗いてみてください。

来年は兵庫県でマスターズの大会が開催されるとかでおっさんチームは気合い入ってまっせー!

(ここでも世代交代はなかなか進まんなあ)

明中・明高ゴルフ会

吉川 一幸 (高18回)

平成27年度の活動について報告します。

・27年4月9日、垂水ゴルフ倶楽部で

第86回コンペを開催。参加者44名

今回から幹事を18回生(永井、立田、

吉川の3名)が担当する事になった。

明中20回生の故杉山清巳さんが参加さ

れたこともあり、表彰式(パーティー)

の最後に明中・明高の校歌並びに応援

歌を全員で斉唱、大いに盛り上がりま

した。

優勝 茨木富美夫氏(高20回生)

準優勝 宮本 隆子氏(高18回生)

・27年10月8日、明石ゴルフ倶楽部で

第87回コンペを開催。

今回は明高1回生から30回生まで幅広

く、14組(52名)が参加。

優勝 向井 勝夫氏(高5回生)

準優勝 宮嶋 昭知氏(高10回生)

※今回から開催コースの変更を実施

春は垂水ゴルフ倶楽部、秋は明石ゴル

フ倶楽部とする。

※次回より当会の名称を『自彊会ゴルフ

会』に改称する事を表彰式後(総会)

で参加者の賛同を得た。

※当会小山会長より「現在母校は創立100

周年への活動を行っており資金面での

支援(OBとして)をお願いしたい。」
とメッセージがあった。

※引き続き新規会員の増強をはかっていく

お問い合わせは幹事・永井

TEL 078-936-0751まで

※次回(第88回大会)は4月7日に垂水

ゴルフ倶楽部で開催。

(尚、第89回大会は10月6日頃に明石ゴ

ルフ倶楽部で開催する予定)

高13回生関東同窓会

前田 和子

大宮盆栽美術館など訪れる

平成26年の首都圏同窓会で次回はサイ

タマでと幹事に指名されました。「埼玉

県」か「さいたま市」にするか迷いまし

たが「さいたま市」を代表する鉄道博物

館と盆栽美術館と決め昨年10月16日、15

名で先ずは、さいたま市立大宮盆栽美術

館Ⅱ写真Ⅱを訪ねました。この美術館は

世界で最初の公立盆栽美術館で銘品と言

われる10鉢以上の大型の盆栽を所蔵して

おり、常時50鉢

位が庭園に、ま

た館内にも9鉢

が週ごとに入れ

替わり展示され



ています。丁度秋の特別展で謡曲「鉢の
木」をテーマにした「盆栽に積もる雪」
がありそれも見て頂きました。



その後徒歩で最寄りの駅に向う途中、

森鷗外の長男、於菟が2年間住んだ住居

跡を見て更に参加者の一人が近くの盆栽

園の園主さんと同じ職場におられたこと

からその園の盆栽も見せて頂きました。

昼食は大宮駅近くのパレスホテル内の和

食レストランで摂りながら和やかに近況

を交換しました。

食後はニューシャトルで一駅、その下

が鉄道博物館です。入館してすぐにボラ

ンティアの方から希望があれば案内して
もいいですよとの話があり、初めに2
階のジオラマ見学、その後1階で日本の
鉄道が始まって以来の歴史的な車両や天
皇のための御料車など色々説明して頂き
ました。他にもラーニングゾーン、3階、
屋上のパノラマデッキなどありますが時
間の関係で1階での解散になりました。
次回は千葉県野田市になる予定です。

高13回生ゴルフコンペ

井上 昌俊

江島君が優勝

昨年9月22日、同窓会が開かれた翌日

に13回生の「第12回喜春(きはる)会ゴ

ルフコンペ」がローズウッドゴルフクラ

ブで13名の愛好家が参加して行われた。

上位の成績は次のとおり。

(敬称略)

優勝Ⅱ 江島昭臣(グロス84、ネット78)

▽2位Ⅱ 日下孝明(グロス91、ネット80)

▽3位Ⅱ 藤原福正(グロス96、ネット80)

喜春会ゴルフコンペは毎年1回行って

おり、多くの愛好者の参加を歓迎してい
ます。

自彊セミナー報告

主要大オープンキャンパスに

245名が参加

27年度も関西主要大学のオープンキャンパス見学の内容で、「自彊セミナー」を実施しました。学校の協力を得て、8大学に延べ245名の生徒諸君が出かけ、真剣に、積極的に見学する姿を見て、この行事の意義を再確認することができました。

訪問した大学、日時、参加者数、引率者は次の通りです。期日はいずれも8月です。

- 1日 関西大▽60名▽竹内信六会長、草川雄二監査、前田浩人教諭、津國聡一郎教諭
- 2日 同志社大↓立命館大▽28名▽佐々木卓郎常任理事、中江涼教諭
- 3日 関学大上ヶ原▽52名▽嘉藤弘之副会長▽山田達雄教諭、衣川恵教諭
- 3日 関学大教育↓上ヶ原▽25名▽鷲森智美常任理事、三尾貴子教諭
- 7日 県立大理学部▽26名▽上月賢司教諭
- 9日 大阪府大↓大阪市大▽31名▽今村意一郎常任理事、桜井寛員教諭
- 14日 武庫川女子大▽23名▽伊川美智子副会長、辺見翔太教諭



同志社大学



大阪市立大学



立命館大学



大阪府立大学



武庫川女子大学



関西学院大学



関西大学



バスで出発

お世話になりました

Stay healthy,
but stay hungry.

前教頭 森 本 克 茂 (高28回)



あつという間の2年間でしたが、多くの生徒、PTAの皆様、先生方に支えられて、教頭職を

務めさせていただきました。また、自彊会の先輩でもある前校長、そして現校長の下で多くを学ばせていただいたのは人生の宝となりました。

生徒の皆さんには1月の講話で話す機会をいただき、英語との向き合い方や、学びの私なりの方法を主に英語で話させていただきました。

人間の脳は異質なものの(英語等)にはアレルギー反応を示しがちですが、慣れることにより、小さな成功体験(わかった!できた!)を重ねることにより、ポジティブな反応をされると言われています。自彊不息の明高生なら多くの可能性を秘めています。今後とも自分を信じて頑張ってください。

自彊不息を私なりに解釈したことがタイトルです。健康に留意し、何くそ!と頑張り続けることです。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸、そして明高の益々の発展をお祈りして、離任の挨拶とさせていただきます。

感謝

佐 伯 敏 裕 (高24回)



勤務校としては4校目となる母校で、定年を迎えるまでの2年、再任用で2年、計24年間も

お世話になりました。着任した頃には高校時代に教えていただいた先生方が数名おられ、職場でありながら親子のような感覚で接していただき、大きくて深い懐の中で伸び伸びと仕事をさせていただきました。

明高出身者ということで、創立70周年、80周年、そして平成25年の90周年と、母校の節目節目の事業に参画させていただいた折には、明高を愛する自彊会の皆様方に多大なご援助をいただいたことも忘れることができません。

語り出せば切りがなく、思い出は尽きませんが、永年受け継がれてきた明高の

「おおらかさ」がこれからも失われることなく綿々と続いて行くことを心より願っています。

明石高校で16年を過ごして

西 尾 和 則



明石高校の校是である「自彊不息」は人生訓としても素晴らしい。これを選んだ初代校長は

卓越している。この一部を会の名前とした明石高校の同窓会設立者も称賛されるべきである。これを背中にプリントして16年間テニスコートで、試合会場で、宣伝して歩きまわった。明石高校はずいんだぞということ言うために。

さて、そのようなこともあって、完全退職の近づいたいま、自分の漢文の素養の無いことを恥じて、最近、漢文を白文のまま返り点などなしに、英語のように読む練習をしている。やっと高校のときの漢文が役に立ち始めた。齢六十五の西尾、漢文に目覚めるの巻きである。

先日、「吮疽の仁」(せんじょのじん)という話が出てきて感動した。「吮」はせんと読み、口が何かをすっているかたちをしめしている。「疽」は、しょと読み、できもの、はれもの、をいっている。「仁」は愛情を言っている。

中国にある野心家の將軍がいた。彼は、時に兵士とともに寝食する気さくな人柄だったが、ある時、若い出稼ぎ農民の兵士の足にできたはれものに気づき、それを、ちゅっちゅっちゅっちゅと口で吸って、うみをだしてやって、薬にしてやった。それをよるこんだ若い兵士は、家に帰ったとき、母親に、「かあちゃん、こないだ、うちの軍隊の、いちばんえらい將軍さんが、ぼくの足のできものうみをすってくれてんで。むっちゃ、うれしかった。あの將軍がだいたいだい好きっ。」と言った。すると母親は、それを聞くや否や、わっと泣き出して、わうわうわう、と大泣きをしてとまらんかった。

なぜ母親は泣いたか?それは、その若者が小さいころに、戦場で亡くなった夫も、同じ將軍にうみをすってもらったからだだった。

ここで作者は、將軍が若者に示す『愛』が結果として若者を、迷いなく死へ向かわせる愛であり、母が若者に示す『愛』は、彼が何とかして生きていてほしいと願う愛であることを対比的に描いている。つまり『愛』は、そんなに単純なものではなく、局面においては、ひとつの『愛』と、もうひとつの『愛』が切っ先を尖らせた刃物のように、完全に対立してしまうことを暗示したと考えられる。

紀元前の中国はこのような微妙な愛の世界を、たった数行ほどの漢文で現出させるのである。やるなあ、中国。いままこの柔軟さが中国の現指導部にあればいいのに。

最近の日本の政府は、「平和を守るため」に海外に若者を派兵することを可能にした。この同じ政府は、「平和を守るため」の武器輸出を2年前に解禁したばかりである。そのために、国家への愛を育てようと、教育の中にすこし方向の違い愛を持ちこもうとするだろう。愛は、なんでもかんでも同じではないことを元前の中国で見事に描いている。見極めねばと思う。若者が愛する何かのために屍になることはおかし。

様々な思いをもっての教員生活も、ここで一区切りますが、これからも明高に役立つことができれば、と思っています。

明石高校での6年間

櫻井寛子



英語科の教員として、また「緑学年」である65、68回生の担任として、6年間勤務させていただきました。

いただきました。私にとって明石高校は、教員としての第一歩を踏み出したとても思い出深い場所です。

思い起こせば6年前の4月、桜咲き誇る明石高校の校舎を目の前に不安いっばいの中、教員生活をスタートしました。それから6年間色々な出来事がありました。人が懐っこい生徒たち、温かく私を見守ってくださった先生方、伝統ある校風に支えられながらなんとか務めを果たすことができました。

ようこそ明高へ！

桜が咲き誇るこの季節は、ご尽力いただいた先生方との別れとともに、これから明高で活躍いただく先生方との出会いの時でもあります。

旧制中学以来の伝統をもつ母校は、「おおらかさ」と「アバウトさ」が混在していることと思います。これは開校以来の大家族主義の影響かもしれません。着任いただいた先生方に新風を吹き込んでいただき、母校がさらに飛躍・発展することを願っております。

最後に、明石高校と同窓会の皆様の益々の発展とご健勝をお祈りし転出の挨拶とさせていただきます。



人

事

☆ 転退任 ☆

- 森本 克茂 先生 [教頭] (伊川谷高校へ)
- 小原 信博 先生 [事務長] (退職)
- 高橋 常夫 先生 [数学] (退職)
- 西尾 和則 先生 [数学] (再任用退職)
- 宮地 伸 先生 [体育] (再任用退職)
- 片尾 晋哉 先生 [数学] (再任用退職)
- 佐伯 敏裕 先生 [芸術] (再任用退職)
- 本城 紀代子先生 [英語] (再任用退職)
- 峠田 修作 先生 [理科] (北須磨高校へ)
- 櫻井 寛子 先生 [英語] (農業高校へ)
- 高原 大輝 先生 [体育] (社高校へ)
- 石垣 寛大 先生 [数学] (伊川谷高校へ)
- 村岸 幸太郎先生 [体育] (舞子高校へ)
- 小松 史道 先生 [理科] (退職)
- 高木 敦史 先生 [事務] (洲本高校へ)
- 三葉 響子 先生 [実習] (姫路工業高校へ)

異

動

☆ 着任 ☆

- 藤本 雅人 先生 [教頭] (北条高校より)
- 原田 浩一 先生 [事務長] (洲本高校より)
- 高橋 常夫 先生 [数学] (明石高校より)
- 奥田 智子 先生 [理科] (福崎高校より)
- 作田 瑠弥 先生 [英語] (農業高校より)
- 古藤 拓也 先生 [体育] (新採用)
- 大西 裕久 先生 [数学] (新採用)
- 先田 広行 先生 [数学] (新採用)
- 西畑 拓人 先生 [数学] (精道中学より)
- 阪本 和樹 先生 [理科] (新任)
- 橘 可奈依先生 [事務] (赤穂高校より)
- 橋本 弘昭 先生 [事務] (新任)
- 和田 典子 先生 [実習] (伊丹高校より)

チャレンジ明高!!

28年4月 進路結果

日々成長

68回生第3学年主任

東田 純一



68回生3
年次の学年
目標に「目
標達成のた
めの学力作

り」「ぶれない進路目標」という
のがありました。前者の目標達
成のために早朝・放課後の通常
補習に加えて、長期休暇にはす
べての教科・科目で補習を行い、
延べ1493名の生徒が参加し
ました。また、英語の単語力を
付けるために行われたNAVI検定
においても、国公立・難関私立
レベルに相当するレベル6に達
した生徒が、9月時点で21・
4%に達しました。
後者の目標達成のために、常

平成27・28年4月進路実績表

大学名	27年	28年
【国立大学】		
帯広畜産大		1
北海道教育大		2
筑波大		1
群馬大		1
千葉大	1	
東京海洋大		1
東京藝大	2(2)	1(1)
富山大	2	
静岡岡大	2(1)	
滋賀大		1
京都教育大		1
大阪大	2	
大阪教育大		3(1)
神戸大	5	1
兵庫教育大	2	2
奈良教育大		1
奈良女子大		1
鳥取大	1	
島根大	1	1
岡山山大	2	2
広島島大	2(1)	
山口大	1	
徳島大	2(2)	3
鳴門教育大		1
香川大	2	
高知大	1	1(1)
佐賀大	1	
合計	29(5)	25(3)

【公立大学】		
はこだて未来大		1
秋田公立大	1	1
首都大東京		2(1)
金沢美術工芸大	4	3
静岡文化芸大	1	
愛知県立芸大		2
京都市立芸大	3	2
大阪府立大		1
大阪府立大		1
神戸市看護大	1	1
兵庫県立大	13(2)	12(2)
公立鳥取環境大		1
岡山県立大	1	1
尾道市立大	1	
県立広島大		2
広島市立大	2(1)	1
高知工科大	1(1)	
沖縄県立芸大	1	
合計	29(4)	31(6)
国公立大学合計	58(9)	56(9)

倉敷市立短大	1	0
国公立短大合計	1	0

【私立大学】		
青山学院大	2	
国士館大		1
芝浦工大		4(1)
多摩美大	14(1)	13(2)
東海大	1	
日本大	2(1)	
武蔵野美大	8(1)	7(2)
明治大		1
立教大		1
金沢工大	8(1)	5(4)
びわこ成蹊大		2
京大外大	1(1)	
京都産大	7(3)	2
京都女子大		1
京都精華大	20	10(1)
京都造形芸大	3	2
同志社大	3	20(1)
同志社女子大		4
佛大		5
立命館大	12(2)	25(14)
龍谷大	2	13(1)
追手門学院大		3
大阪経大	6	11(1)
大阪芸大	2	
大阪工大	27(3)	9(2)
大阪電気通信大	7(1)	8(1)
関西大	46(6)	90(7)
関西外大	6(1)	13(1)
近畿大	68(7)	57(5)
大和		13(4)
関西学院大	41(10)	61(3)
甲南大	73(9)	81(4)
甲南女子大	8(1)	43(2)
神戸学院大	53(3)	71(1)
神戸芸術工科大	11	3
神戸女学院大	7	12
神戸女子大	17(1)	30
神戸薬大		2
松蔭女子学院大	2	10
神戸親和女子大	10	11
武庫川女子大	29(1)	35
その他	106	75
合計	602(66)	754(58)

文部省管轄外合計	0	1
----------	---	---

短期大学合計	43	43
--------	----	----

専門学校合計	57	45
--------	----	----

就職・公務員合計	5	3
----------	---	---

数字は合格総数、()内は既卒生の合格数

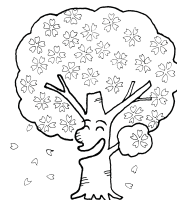
に「易きに流れず、最後の最後
まで諦めずに頑張れ。」というス
タンスで指導を行いました。そ
の結果、センター試験出願者及

び自己採点者の数は例年を大き
く上回り240名、211名に
なりました。
それでは、進路結果はどうで
しょうか。まず、私立大学です。
今年特筆すべき点は本校では文
Aと言っている私立文科系に重
点を置いていたクラスの生徒た
ちが非常によく頑張りました。
その結果、関関同立甲南大の合
格者総数は昨年と比較して17

5名から277名の100名増
になっています。その中でも、
関西大学が46名から90名の倍増、
同志社大学に至っては3名から
20名の7倍増の躍進です。
一方、国公立大学では京阪神
大では神戸大学の1名に止まっ
てしまいましたが、兵庫県立大
学12名を含めて計56名が合格し
ました。
大学や短期大学、専門学校、

企業に入ることが最終目的では
ありません。68回生350名に
は、それぞれの進路先で長期目
標を設定して日々成長して欲し
いと思います。

合格 おめでとう!!



伝統



己の壁を乗り越えろ!

顧問 若山 賀世

「己の壁を乗り越えろ」これは体育館のバレーボール部の練習場の横断幕に書かれた言葉です。実は、この言葉は現在のチームには重く感じられています。

六月、三年生が引退し一・二年生の新チームがスタートしました。夏休みでの他校との練習試合では勝つことが多く、「これは行けるぞ!」と思っ



しかし、九月に入り公式試合が次々と行われ、東播の選手権大会、新人戦では、あと一試合勝てば県大会出場というところで惜しくも敗退し、また、東播のリーグ戦では1部に昇格できず2部残留という結果となりました。すべて

の試合において、あと一步のところでは本校のミスが重なり悔しい思いをしました。

現在、チームは試合での負けを経験しその結果をバネにして、これまで以上に努力するようにになりました。その上で練習を重ねていくうちに、チームワークも良くなりました。

本校の部員は、バレーボールという競技に必要な「思いやりの心」を持っています。自分が上げたボールを、次の人が繋ぎやすいように思いやりの気持ちを持って上げる。そのボールを上げた人の気持ちを、次の人が最高のプレーで繋ごうとする。このような気持ちのプレーが増えてきているので、必ず結果はでると信じています。

私は部員達を頼もしく思います。力はついていきます。あとは「ここで、上げる」「ここで、決める」に強くなることです。仲間を信じ、自分の力を最大限に発揮して勝利をつかみ取ってほしいと思います。壁は高いほど一人の力では超えられません。チーム一丸となり必ず超えてくれるはずですよ。

目指すは、近畿大会出場! 己の壁を乗り越えろ! チームで壁を乗り越えろ! 部員22名、顧問2名、近畿大会出場目指し頑張りますので応援よろしくお願いします。

陸上競技部

27年度を振り返って

顧問 山本 直樹

スポーツが盛んな東播地区らしく、明石高校陸上部にも毎年多くの選手が入部してきます。特徴的なのが中学では陸上競技と無縁ながら入部し、経験者と切磋琢磨す

るなかで目標を見出し、しっかり練習する生徒が多くいる点です。経験の有無を問わず、刺激を互いに与え、平成27年度のインターハイは9種目と例年より数多い選手の県大会進出を決めました。県大会においては4種目において準決勝進出、3種目決勝進出を果たしました。中でも男子マイルリレー(4×400m)という大会最後を飾る競技において準決勝進出、明石高校歴代記録をはるかに更新し、チーム全体の成長を感じさせるレースとなりました。昨年度は長距離王国といわれる兵庫県において男子1500mの近畿大会出場を決めていますが、個人だけでなく、チーム全体の成長を実感した大会でもありました。



3年生引退後、男子17名、女子15名の部員で活動をしています。練習は基本的なメニューを顧問が作成しますが、プラスアルファのメニューは選手自身で考えています。ひとつの練習方法が誰にでも効果があるわけではありませんが、自分自身の体を理解すべく試行錯誤するなかで個人に合わせたメニューに発展さ

放送部

2020年を目指して 一歩一歩のチャレンジを

顧問 山中 良秀

ここ数年、放送部は県下各校と切磋琢磨することで徐々に力をつけてきたように思います。これまで「夢」ではなかったこと、できるはずがなかったことが少しずつ実現できるようになりました。学校の各行事についても、「欠かさない存在」になりつつあります。ここ数年で実現できたことを少し振り返ってみます。

- ①「明石高校初!!」
- ②「17年ぶりの快挙!!」

ホームページでも紹介させていただいていますが、ここ数年、生徒がよくがんばり実現しています。例えば、NHK杯高校放送コンテスト、この大会は地区に全国大会上位常連

校があり、全国どこか地区を突破して県大会へ出場することも大変な大会です。地区大会においても、県大会への切符となる「入選」どころかその次の「佳作」に入るだけでも大変です。地区での優勝は全国大会の優勝に直結するくらいに、とにかくレベルが高い。ですが、ここ数年は「佳作」は常連、時々「入選」というところまでがんばっています。特に個人部門での「入選」は明石高校初の快挙です。ラジオ番組部門についても「17年ぶり地区大会突破」です。県総合文化祭においても、これまでは「賞」というものに全く無縁でしたが、ここ数年は何かで「佳作」をとり、一昨年には個人部門で長年の悲願だった「入選」に入ることができました。生徒についても、大会に参加するだけではなく、少しでもプラスαを得たいという意識になってきています。

②「明石高校で大会を開催する」「研修会を実施する」

今ではフツーにできることですが、これまでは「機材がない」「研修の講師がない」「何をしたいのかわからない？」などなどで実現できませんでした。今はフツーにできます。他校からも「明石高校なら大丈夫」との信頼を得ることもできました。生徒の普段の取組み、放送部としての当たり前の取組みを続けたことが評価されたことと思います。今年の2月には、第3地区放送フェスティバルを11回目にして初めて本校で実施しました。この大会では過去最高の参加校、参加者数を記録しました。当然、全国大会で上位の生徒も参加しています。その中で、本校の3名が「佳作」を得ることができました。

③「県総合体育大会に放送部が関係してい

る?」

平成26年度・27年度と県高校総合体育大会開会式の司会をさせていただきました。放送部の生徒にとっても視野を広げるまたとない機会となりますし、県下運動部生徒の最大の大会に関係することを名誉に思います。これからも機会があれば取り組ませていただきますと思います。

④「明石高校が変わった?」

県下で長い間放送部に携わっておられる先生から、「最近、明石高校の生徒はがんばっているな」と声をかけられました。それで、よくよく話をお聞きすると、平成の初め頃?平成15年前後?正確な記録がなく詳細な日時は不明ですが、明石高校を会場に大会が実施された時、当時の校長先生が「明石高校は大会で負けることは絶対にありません」と高らかに宣言されたそうです。で、なぜなのか?「なぜなら大会に参加しないから」ということだったようです。でも、最近では、「明石高校は大会でなかなか勝てません。なぜなら、各大会に参加して全国トップクラスのライバル達と競っているから」と変わってきました。生徒のがんばりで、地区大会だけでなく、県大会にも参加することがフツーになっています。大会に参加することで視野を広げることができ、自分を成長させることにつながります。

⑤「明石市の仕事をする」「新聞やテレビに登場する」

昨年、戦後70周年平和啓発事業の一環として、明石市が作成した『七夕の願い〜明石空襲〜』の実写版DVD作成に演劇部と共に取り組みました。同時に、『明石空襲史実編』のナレーションもさせていただきました。こ

のDVDは市内小・中・高校をはじめ各コミセンなどへも配布されました。このことは新聞やテレビでも報道されました。

そして、市長より「市長感謝状」をいただきました。生徒にとっても大きな経験、大きな自信になったことと思います。これからのよ



うな仕事をいただければ取り組んで行きたいと思えます。ただ、撮影機材が家庭用のものしかなく、いかに工夫するか、いい勉強になりました。

その他、いくらでもあります。また、まとりあつかいもそうです。次の機会に続けたいと思えます。放送部には、普通科の生徒だけでなく、美術科の生徒、類型の生徒もいます。それぞれの動きの中でなかなか時間が合わない時もあります。それぞれが忙しい中で、工夫をして部活動に取り組んでいます。学習面にも力を入れています。放送部では、「万一、一つでも欠点があると、その生徒は欠点がなくなくなるまで活動できない。たとえ最後の大会があっても参加できない。」というルールがあります。そうならないためにも必死です。

2020年には東京オリンピックが開催されます。そのため、NHK杯全国大会が兵庫県で開催される予定になっています。今はまだ「夢」ですが、地元開催の全国大会に1人でも2人でも参加してほしいと思っています。

同時に、「文化部にとっては文化祭が最大の発表の場」というよく聞く言葉を「文化部にとっては総合文化祭(放送部にとってはNHK杯、総合文化祭)」というように変えることができるように取り組みたいと思います。学校行事への取組みは「最大」ではなく「当たり前」のことです。実際、生徒に聞くと、NHK杯などの大会を経験すると「大会での緊張感に比べると、学校行事や講演会の司会などはたいしたことはない」らしいです。大会へ向けて、それほど懸命に取り組んでいきます。

これからも放送部として、「学校の役に立つ活動をする」「各大会の全部門に参加する」ということを二本柱にして活動して行きたいと思えます。そして、「明石高校初」をひとつでも多く実現していきたいと思えます。まだまだ不十分な点も多くありますが、ご声援いただければと思います。頑張ります。



平成27年度決算報告 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1 一般会計		(単位：円)		
(収入の部)		予算額	決算額	
1	平成26年度繰越金	1,100,000	1,100,000	増減 0
2	平成27年度年会費納入金	5,500,000	5,830,000	330,000
3	財政調整基金より	6,000,000	6,009,788	9,788
4	雑収入(ご寄付、銀行利息等)	10,000	265,392	255,392
合計		12,610,000	13,205,180	595,180
(支出の部)		予算額	決算額	増減
1	会議費(総会・理事会・本部役員会等)	500,000	374,378	△125,622
2	事業費(母校・学年等への支援・広報活動等)	9,180,000	8,161,174	△1,018,826
3	事務費(事務局・維持管理等)	2,920,000	2,600,780	△319,220
4	予備費	10,000	0	△10,000
5	次年度繰越金		2,068,848	
合計		12,610,000	13,205,180	595,180
2 基金		(単位：円)		
		(収入の部)	(支出の部)	
①	財政調整基金			
	平成26年度繰越金	2,139,448		
	在校生納入	4,248,000		
	銀行利息	340		
	一般会計へ繰り出し		6,009,788	
	次年度繰越金		378,000	
合計		6,387,788	6,387,788	
②	自彊セミナー特別基金			
	平成26年度繰越金	2,101,044		
	銀行利息	294		
	活動費(大学見学バス借り上げ料等)		648,594	
	次年度繰越金		1,452,744	
合計		2,101,338	2,101,338	
③	100周年記念事業特別基金			
	平成26年度繰越金	316,038	0	
	銀行利息	325	0	
	27年度積立金	126,637	0	
合計		443,000	0	
3 監査報告				
平成27年度の決算について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。				
平成28年4月5日				
		監査	加護谷榮章 印	
		監査	草川 雄二 印	

平成27年度事業報告

月	日	内 容	月	日	内 容	
4	11	第23号会報編集委員会(第3回)	9	12	第3回本部役員会	
	18	第1回本部役員会		12	第2回自彊セミナー運営委員会	
	26	第23号会報編集委員会(第4回)	10	3・4	自彊セミナー「全統記述模試」(3年生)	
5	9	第1回理事会		17	第2回理事会	
	27	会報第23号発行	11	28・29	自彊セミナー「全統センタープレテスト」(3年生)	
6	6	第2回本部役員会		1	23	第4回本部役員会
	21	平成27年度総会(於 生涯学習センター8階)		2	13	第5回本部役員会
7	10	第1回自彊セミナー運営委員会		13	第24号会報編集委員会(第1回)	
8	1	自彊セミナー「関西大学」見学		26	第68回生同窓会入会式	
	2	自彊セミナー「同志社大学・立命館大学」見学	3	12	第3回理事会	
	3	自彊セミナー「関西学院大学」見学		12	第24号会報編集委員会(第2回)	
	7	自彊セミナー「兵庫県立大学理学部」見学		21	第66回生成人記念同窓会	
	9	自彊セミナー「大阪府立大学・大阪市立大学」見学				
	14	自彊セミナー「武庫川女子大学」見学				

同窓会役員

会長 竹内 信六(高13回)	(中7回)	井上 利夫(高19回)	橋本 真彰(高55回)
副会長 安藤 勉(中18回)	(中8回)	川井 功一(高19回)	村中 裕(高56回)
嘉藤 弘之(高15回)	(中9回)	尾谷三枝子(高19回)	西角 千尋(高57回)
伊川美智子(高16回)	(中10回)	池田 隆行(高20回)	山本 芳行(高58回)
和田 直樹(高28回)	(中11回)	村松 克行(高20回)	佐藤 匠(高59回)
常任理事 今村意一郎(高16回)	(中12回)	藤丸 達美(高21回)	竹内 裕貴(高60回)
佐々木卓郎(高18回)	前川 利一(中13回)	池内 満(高22回)	和田 亮磨(高61回)
長塩 知子(高18回)	浅田 正行(中14回)	南谷 雄司(高23回)	西山 直幸(高62回)
岩澤 武(高19回)	(中15回)	高木 文雄(高23回)	中下 将太(高63回)
藤丸 達美(高21回)	(中16回)	河合 昭彦(高24回)	小柴 智弘(高64回)
田中 雅子(高23回)	中尾 和一(中17回)	瀬川勝太郎(高25回)	櫻井 拳人(高65回)
吉田 信次(高31回)	安藤 勉(中18回)	宮地 宏明(高25回)	山内 圭哉(高66回)
鷺森 智美(高38回)	(中19回)	上山 宏(高26回)	平田 茉有香(高67回)
監査 加護谷 榮章(高7回)	(中20回)	永井 邦治(高27回)	星野 優輝(高67回)
草川 雄二(高11回)	竹原 學(高1回)	八木 英敏(高28回)	松村みなみ(高68回)
顧問 永井 邦治(校長)	浅田 博(高2回)	坂東 利雄(高29回)	山澤 勇登(高68回)
前川 利一(中13回)	桃尾 行男(高3回)	小椋 秀徳(高30回)	兵庫県庁支部 田中 敬一(高26回)
岸本 潔(中19回)	瀧上 初美(高3回)	高橋 信次(高31回)	神戸市役所支部
越智 聰明(高1回)	赤松 信(高4回)	吉田 翔理(高32回)	明石市役所支部 前田 豊(高29回)
秋山 泰治(高1回)	向井 勝夫(高5回)	三木 義弘(高33回)	淡路支部
松本 ヤス(高2回)	木村 稔(高5回)	堀田 健一(高34回)	東京支部 野呂 良久(高14回)
清水 正孝(高3回)	尾上てる予(高5回)	井上利可子(高35回)	美術科支部 鷺森 智美(高38回)
浅田 弘子(高6回)	密谷 和正(高6回)	浅田 雅之(高36回)	事務局 木下 裕一(高15回)
茨木 智(高8回)	高德 雄三(高6回)	(高37回)	吉田 真司(高21回)
米澤 淑介(高12回)	安藤 博美(高7回)	西川 昌宏(高38回)	寺口 吉行(高34回)
三浦 宏(高14回)	伊藤 雅子(高7回)	廣中 芳範(高39回)	角野 友昭(高42回)
松本嘉代子(高16回)	石井 清隆(高8回)	北山 力也(高40回)	上田 修平(高56回)
学年理事 (中1回)	堤 明(高9回)	梅田 光一(高41回)	
(中3回)	小山 孝治(高10回)	谷口 正晃(高42回)	
(中4回)	藤原 博(高10回)	高雄 正臣(高43回)	
松岡 謙治(中5回)	柳瀬 弘(高11回)	(高44回)	
穂原 勝美(中6回)	佐々木伸一郎(高12回)	本田 学(高45回)	
	西川 真澄(高13回)	藪内 健吾(高46回)	
	井上 健(高13回)	西山 武(高47回)	
	谷川 博男(高14回)	澤田 雅文(高48回)	
	谷口 卓海(高14回)	(高49回)	
	手塚佳世子(高14回)	芝 純司(高51回)	
	津野 弘子(高15回)	木村功太郎(高52回)	
	岡本 建二(高16回)	小島 一朗(高53回)	
	奥田 寛(高17回)	(高54回)	
	佐々木卓郎(高18回)		
	岩澤 武(高19回)		



ふたたびお世話になります

上田 修平(高56回)



ご挨拶が遅くなりましたが、昨年度、
 教員として母校に帰ってきました。今年度は美術科1年の担任になりました。今年度から同窓会の事務局にもなりました。母校のために、微力ながらも尽力していきたいと考えております。これからよろしく申し上げます。

事務局よりお願い

- ① 転居されたときには新任所をお知らせ下さい。
 - ② お亡くなりになった方の連絡については、間違い防止のため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
 - ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、支援金をお渡しします。代表者の方は事務局へご連絡をお願いします。
 - ④ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡は、ファックスが一番確実です。(FAX 078-913-6554)
 - ⑤ 同窓会運営の資金源である年会費の納入に、ご協力をお願いいたします。お手数ですが郵便局ATMのご利用をよろしく申し上げます。
- ※ 手数料(同窓会負担)
 郵便局(窓口130円・ATM80円) コンビニ108円

ご子息愛用の楽器を寄贈

トロンボーンとユーフォニアム

5回生山本さん、音楽部に

平成27年12月10日、5回生山本(旧姓土堀)昌子さんが本校を訪れ、ご子息が愛用されていた金管楽器を音楽部に寄贈された。

贈られたのは、ご子息が中学、高校6年間使っていたトロンボーンとユーフォニアム。山本さんと離れて住んでいるのと、中・高校も自宅から遠い、ということで山本さんの母校にプレゼントすることになった。

修理も終えた金管楽器2つが山本さんから音楽部長の溝部千花さん(現3年生)ら3名に手渡された。3名は早速試し吹きをしていた。立ち会った音楽部顧問・鈴木龍仁教諭は「思い出深い貴重な楽器を寄贈していただきありがとうございます。活用させていただきます」とお礼の言葉を述べ、山本さんは「何十年かぶりに母校を訪れ、感激しています」と話されていた。



トロンボーンを寄贈



ユーフォニアムを寄贈

お知らせ

高校26回生還暦記念同窓会

期 日：2016年8月11日(木)
時 間：午後2時より
場 所：西明石 ホテルキャッスルプラザ
※お誘い合わせの上、多数ご出席下さい。

高校27回生還暦記念同窓会

期 日：2017年2月11日(土)
時 間：午後5時より
場 所：西明石 ホテルキャッスルプラザ
※ご案内は秋頃の予定です。

高校39回生同窓会

期 日：2016年8月13日(土)
時 間：午後2時より
場 所：ANAクラウンプラザホテル神戸
連絡先：廣中芳範
(09034937788)

※卒業30周年の記念同窓会です。高校時代に戻り、楽しい集いにしましょう。

編集後記

日本標準時子午線が明石市立天文学館のタワーの中央を通過していることは、明石市民なら小学生でも知っていますが、その通過地点の決定に際し明石中学校(高校)が深くかかわっていることをご存知の方は少ないと思います。

現在の明石高校の運動場南西角に位置するプールの南側に一辺およそ1メートルの立方体のコンクリート台がひっそりと置かれ、その台の側面には古びた銘板が張り付けてあります。その銘板の要旨は次のようなものです。

「昭和3年、今上天皇即位を記念して明石教育会は東経135度の通過地を明確にするため、京大の野満隆治博士に天体計測を依頼した。同年7、8月に同教授を含む4名が明中塾に寝泊まりし、その台に経緯儀機を設置して計測した。その後の2カ月に及ぶ詳細な計算の結果、東経135度子午線はこの観測台の西470.4mを通過することを確定した。」

厳密には、その後昭和26年に再観測の結果、正確な天文経度東経135度は昭和3年のそれより東へ11.1mと確認され、天文学館はそのを基準に建設されたとのこと。

この天測事業を提唱し、銘文を記されたのは当時明石中学の校長であり、明石市教育会長であられた山内佐太郎先生でした。いまグーグルマップ上でもこの台と子午線の距離が約470mであることが確認できます。東経135度の通過地と手を挙げる自治体は多くありますが、明石が認知されているのもこのような経緯があったからと考えます。

しかし、日本(さらには韓国)の標準時をつかさどる東経135度子午線通過地を決めた貴重な遺跡が母校の片隅に存在することを、ごく僅かの人しか知らないのではないかと筆者は少し残念に思っています。母校の創立100周年の事業のひとつとして、この観測台を整備し世間にデビューさせればと思えますが、同窓会の皆様、いかがでしょう。(卓)



山陽電車人丸前駅 プラットホーム



昭和2年 明石デパートから北方向に明石駅、公園を見る。



昭和5年 子午線標柱

なつかしの
明石写真館



昭和6年 運動場北 上水場の給水塔



昭和29年 お城から南方向、駅・淡路島を望む



昭和29年 フェリー開通



昭和31年 国鉄明石駅・山陽電鉄明石駅(撮影=木村時彦氏)



昭和35年 天文科学館



昭和49年 銀座通りと国道2号交差点



昔も

発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷